

2010年6月7日

美香子ちゃんを救う会の再募金活動への支援のお願いについて

- 小腸・大腸移植手術後、体調が安定せず約2ヶ月間もICU(集中治療室)に入っています。
- 当初のディポジット(保証額)では不足し、追加ディポジットを要求されています。
- そこで、再度、募金活動(目標金額 6000万円)を開始することとなりました。
- 全国の皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。
- 小腸治療への保険適用実現へ向けた世論の喚起、国民的議論を！

【概要】

東京都渋谷区の前谷 信一(ふるや しんいち、33歳)さんと妻前谷 香代子(ふるや かよこ、33歳)さんの娘、前谷 美香子(ふるや みかこ、1歳6ヶ月、以下「美香子ちゃん」という。)ちゃんは、米国・コロンビア大学プレスビテリアン病院において、平成22年4月9日から10日(日本時間)にかけて約8時間の小腸・大腸移植手術を受けることができました(加藤 友朗医師執刀)。しかしながら、移植手術は無事終了したものの術後の体調が安定せず、肝臓等の機能が低下して腹水が体内にたまり、手術の傷口の治癒も遅れるなど治療が難航しています。しかも、6回もの手術を行い、6月7日現在、ICU(集中治療室)に約2ヶ月間入らざるを得ないという想定外の事態となっています。その結果、高額の治療費がかかり、当初、病院に支払っていたディポジット100万ドル(約1億円)では不足することとなり、5月19日時点で追加ディポジット50万ドル、さらに、5月末の脾臓摘出手術費等を含めた25万ドルを合わせた合計75万ドル前後が必要であると病院から通達されています。そのため、美香子の父親が緊急帰国し、再度、募金活動を開始させていただきこととなりました。再募金目標金額は6000万円(75万ドル(7200万円(1ドル95円換算))ー余剰金約1200万円)とさせていただきます。全国の皆様のご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

【経緯】

美香子ちゃんは、2008年11月14日に生まれ、生後1週でヒルシュスプルング病(腸の動きをコントロールする腸管内神経節細胞が先天的に欠如している病気)と診断されました。特に美香子ちゃんの場合は、小腸、大腸などの全腸管の神経がなく、口からの栄養摂取がまったくできない状態であったため、医師からは余命半年との診断を受けていましたが、医師の懸命な治療と本人の強い生命力で、中心静脈栄養によって着実に体重を増やすことができました。当初、生体移植(母親の小腸)を目指していましたが、大人の臓器は大き過ぎて入らないため断念し、また、肝硬変が進行し、敗血症等感染症の可能性も高く、国内で15歳未満の子どもからの臓器移植手術が可能となる今年7月まで待つことができない状況であったため、海外での臓器移植を決定しました。海外での臓器移植のためには、治療費、渡航費等を含めて一個人・一家庭では到底用意することのできない膨大な費用が必要なため、美香子ちゃんの両親の友人有志によって「美香子ちゃんを救う会」を設立し、2009年10月より募金活動を展開してまいりましたところ、全国の皆様のご支援・ご協力により2010年1月上旬に無事募金目標額1億1千万円を達成し、受入れ先のコロンビア大学プレスビテリアン病院にディポジット(保証金)100万ドル(約1億円)を送金することができ、2010年2月11日にアメリカへ渡航することができました。

【今後について】

今後、改正臓器移植法の施行により、国内での臓器移植という方向に流れが大きく傾いていくかと思われませんが、他の多くの臓器には保険適用があるところ、小腸治療には保険が適用されません。今後も免疫抑制剤等の処方が必要ですが、帰国後も月数十万円の医療費が必要となります。

2009年9月29日に小腸移植への保険適用実現に向けた取組みを行うよう、石原慎太郎都知事あてに陳情書を提出し(佐藤広副知事面会)したところですが、今後も小腸治療への保険適用実現へ向けた世論が喚起され、各行政庁の迅速な対応が促されることを心より念願しています。

問い合わせ先
美香子ちゃんを救う会 代表 中岡 洋一
TEL : 03-3374-1108
mail : info@mikako-bokin.com
URL : http://mikako-bokin.com/